

川崎市総合計画第1期実施計画 政策体系図

基本政策	政策	施策	事務事業(○は本計画に掲載している主な事務事業)
	政策 4-5 魅力ある都市拠点を整備する	施策 4-5-1 魅力にあふれた広域拠点の形成	
			○ 川崎駅周辺総合整備事業
			○ 京急川崎駅周辺地区整備事業
			○ JR川崎駅北口自由通路等整備事業
			○ 小杉駅周辺地区整備事業
			○ 新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり推進事業
		施策 4-5-2 個性を活かした地域生活拠点等の整備	
			○ 新川崎駅・鹿島田駅周辺地区まちづくり推進事業
			○ 溝口駅周辺地区まちづくり推進事業
			○ 鷺沼駅周辺まちづくり推進事業
			○ 登戸土地区画整理事業
			○ 柿生駅周辺地区再開発等事業
			○ 南武線沿線まちづくり推進事業
	○ 南武支線沿線まちづくり推進事業		

施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)

1 施策の概要							
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり					
	政策(2層)	魅力ある都市拠点を整備する			計画当初値(H27年)	直近実績値(H28年度)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	①	市内の広域拠点駅(川崎駅、武蔵小杉駅、新百合ヶ丘駅)の周辺に魅力や活力があると思う市民の割合	70.0%	72.8%	70.0%	
		②	市内の地域生活拠点駅(新川崎・鹿島田駅、武蔵溝ノ口駅、鷺沼・宮前平駅、登戸・向ヶ丘遊園駅)の周辺に魅力や活力があると思う市民の割合	52.6%	42.2%	52.6%	
施策(3層)	施策コード	施策名					
	40501000	魅力にあふれた広域拠点の形成					
担当	組織コード	所属名					
	504100	まちづくり局市街地整備部地域整備推進課					
関係課	まちづくり局拠点整備推進室						
施策の概要	<p>●グローバル化が急速に進展する中で、首都圏の好位置にある本市の強みを最大限に活かした広域拠点の整備により、戦略的に「都市の成長」を引き寄せ、時代の変化に応じて必要となる都市機能の集積・更新により「都市の成熟化」を図ることで、都市の活力向上による持続可能なまちづくりを推進します。</p> <p>●川崎駅周辺では、北口自由通路や堀川町C地区連結ペDESTリアンデッキの整備により、歩いて移動しやすい歩行者空間の整備を推進します。さらに、その効果を最大限に活用するため、JR・京急の駅間の連携強化を進めるとともに、民間活力を活かした羽田空港や臨海部の玄関口である京急川崎駅周辺のまちづくりを推進します。また、建物の高経年化が進む東口の既成市街地等については、計画的かつ段階的な土地利用誘導や既存ストックの有効活用等により、民間活力を活かした多様な都市機能の集積による土地の高度利用を図るなど、本市の玄関口としてふさわしい、更なる魅力を発信する安全・安心な都市拠点の整備を推進します。</p> <p>●小杉駅周辺では、南側において、小杉町3丁目東地区市街地再開発事業や国道409号の整備にあわせたまちづくりを進め、都市基盤整備を推進するとともに、北側において、医療・福祉、文化・交流機能を中心としたまちづくりを進め、多くの都市機能が集積した誰もが暮らしやすいまちづくりを推進します。</p> <p>●新百合ヶ丘駅周辺は、文化・芸術などの地域資源を活かした、賑わいのあるまちづくりを進めるとともに、周辺環境の変化等を見据え、新たな土地利用転換などに伴う適切な誘導や交通環境改善を図り、より質の高い、魅力ある広域拠点の形成を推進します。</p>						
直接目標	川崎・武蔵小杉・新百合ヶ丘駅周辺の魅力を高める						

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析									
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)				現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位	
成果指標	1	広域拠点(川崎駅・武蔵小杉駅・新百合ヶ丘駅)の駅周辺人口	指標の説明 広域拠点の駅を中心に半径500m圏内の町丁目の川崎市統計書による人口を合計	12.6	目標値(a) 実績値(b)	12.7 13.1	12.9	万人	
				H26	達成率(b)/(a) 指標達成度 ※1	103.1% a	- -	↑ 増減	
	2	広域拠点(川崎駅・武蔵小杉駅・新百合ヶ丘駅)の駅平均乗車人員	指標の説明 広域拠点の駅の川崎市統計書による乗車人員を合計	52.4	目標値(a) 実績値(b)	53.1 56.4	53.8	万人/日	
				H25	達成率(b)/(a) 指標達成度 ※1	106.2% a	- -	↑ 増減	
3					目標値(a) 実績値(b) 達成率(b)/(a) 指標達成度 ※1				
その他数値で把握できる補足指標(指標の説明)					実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1	指標の説明			実績				
	2	指標の説明			実績				
その他定性的な成果 (取組を進めたことで発現した効果などについて記載)									
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)		<p>●広域拠点の駅周辺人口については、拠点整備や拠点整備の波及効果により、全駅とも目標値を上回るなど、数値目標を達成しています。</p> <p>●駅乗降人員については、拠点整備や拠点整備の波及効果により、全駅とも目標値を上回るなど、数値目標を達成しています。</p>							

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価										
番号	事務事業コード 事務事業名	サービ ス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の 達成度	施策へ の貢献 度	今後の 事業の 方向性	
					予算額	決算額				
					H27年度	H28年度(※決算額は見込)				
					H29年度					
1	40501010 川崎駅周辺総合整備 事業	その他	川崎駅周辺地区については、本市の玄関口にふさわしい、多様な賑わいや交流が生み出す活力と魅力にあふれた広域拠点の形成を推進します。	●「川崎駅周辺総合整備計画」に基づく事業の推進 ●堀川町C地区連絡ペDESTリアンデッキの工事着手 ●「小川町地区都市基盤施設活用方策」に基づく取組の推進 ●民間開発の誘導	895,855	272,230	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続	
					1,187,657	770,054				
					2,080,350					
2	40501020 京急川崎駅周辺地区 整備事業	その他	京急川崎駅周辺地区については、羽田空港との直結などの地理的優位性を活かし、川崎の玄関口にふさわしい商業・業務等の集積による賑わいを民間主導で創出します。	●民間開発事業の整備促進 ●都市基盤整備等の取組推進	5,970	5,400	3	B やや貢献 している	I 現状のま ま継続	
					20,000	9,191				
					15,934					
3	40501030 JR川崎駅北口自由通 路等整備事業	その他	JR川崎駅へのアクセス性の向上と東西自由通路の混雑緩和、駅東西の利便性・回遊性等の向上を図るため、北口自由通路と新たな改札口を整備します。	●北口自由通路等の整備推進 ●北口自由通路西側ペDESTリアンデッキの整備推進 ●アゼリア接続エレベータの整備推進	2,941,705	1,177,642	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続	
					2,466,653	1,090,166				
					3,739,552					
4	40501040 小杉駅周辺地区整備 事業	その他	小杉駅周辺地区については、民間開発の適切な誘導と支援により、都市型住宅や商業、業務、公共公益施設などがコンパクトに集約した、市域の中心に位置する広域拠点として、ふさわしい都市拠点の形成を図ります。	●民間開発の誘導(小杉町3丁目東地区工事着手、日本医科大学地区都市計画決定)	1,400,849	146,917	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続	
					1,561,422	1,799,346				
					1,387,237					
5	40501050 新百合ヶ丘駅周辺地 区まちづくり推進事業	その他	新百合ヶ丘駅周辺地区については、民間開発の適切な誘導や交通環境改善を図り、より質の高い、魅力ある広域拠点の形成を推進します。	●新百合ヶ丘駅南口駅前広場等における交通混雑緩和に向けた取組の実施 ●民間開発の誘導	17,300	6,410	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続	
					86,000	31,503				
					2,000					
6										
7										
8										
9										
10										

4 施策の進捗状況			
施策の 進捗状況 (指標等の成果を中 心に施策を構成す る事務事業の評価 等から総合的に評 価)	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	A

5 今後の方向性			
今後の 事業構成の 妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40501010	川崎駅周辺総合整備事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	506200	まちづくり局市街地整備部地域整備推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠 (法令・要綱等)	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、環境基本計画、情報化推進プラン、総合都市交通計画、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A		895,855	272,230	1,187,657	770,054	1,269,156	2,080,350
		国庫支出金	355,572	—	526,187	—	590,775	869,901	
		市債	445,000	—	546,000	—	569,000	1,025,000	
		その他特財	81,859	—	83,676	—	79,725	137,484	
	一般財源	13,424	—	31,794	—	29,656	47,965		
人件費* B				45,453	45,453	0	0	0	
総コスト(A+B)				1,233,110	815,507	1,269,156	2,080,350	0	
人工(単位:人)				5.36					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	魅力ある都市拠点を整備する
	施策	魅力にあふれた広域拠点の形成
	直接目標	川崎・武蔵小杉・新百合ヶ丘駅周辺の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	川崎駅周辺地域及びそこで活動する市民、事業者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本市の玄関口にふさわしい、多様な賑わいや交流が生み出す活力と魅力にあふれた広域拠点の形成	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	北口自由通路や堀川町ペDESTリアンデッキの整備により、歩いて移動しやすい歩行空間の整備を推進するとともに、民間活力を活かした京急川崎駅周辺のまちづくりの推進や、建物の高経年化が進む東口の既成市街地等について、計画的かつ段階的な土地利用誘導や既存ストックの有効活用などを行う。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①「川崎駅周辺総合整備計画」に基づく事業の推進 ②堀川町C地区連絡ペDESTリアンデッキの工事着手 ③川崎駅東口周辺のまちづくり手法等の検討 ④「小川町地区都市基盤施設活用方策」に基づく取組の推進 ・バス発着場の基本設計等の実施 ・既存駐輪場の代替施設の工事着手 ⑤民間開発の誘導 ・大宮町A-2街区に関する協議及び調整	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標通り達成できました。 ①民間活力を活かした土地利用の誘導や客引き行為等防止の重点区域の指定など川崎駅周辺総合整備計画に基づく取組みを推進しました。 ③川崎駅東口地区は、関係者との勉強会を開催するなど、東口周辺のまちづくり手法等の検討を行いました。 ④小川町地区既存駐輪場の代替施設については、工事着手に至らなかったものの、詳細設計の実施に向けた関係部署との調整を進めました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	平成18年に策定した川崎駅周辺総合整備計画に基づくこれまでの取組成果を活かしつつ、少子高齢化の進展や羽田空港の国際化など、社会経済情勢の変化を踏まえた取組の推進が必要です。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成27年度 川崎駅周辺総合整備計画の改定

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	平成27年度に改定した計画に沿って推進しています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	川崎駅周辺総合整備計画に基づき、事業を推進することで、駅周辺の魅力向上が図られています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
評価の理由	民間活力を活かしながら、効率的に事業を推進しております。		
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	本市の玄関口にふさわしい、賑わいと魅力あふれる広域拠点の形成を目指し、川崎駅周辺総合整備計画に基づき、堀川町C地区ペDESTリアンデッキの工事着手や、大宮町A-2街区の民間開発の協議調整を進めています。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 川崎駅周辺総合整備計画に基づき、事業を推進してまいります。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40501020	京急川崎駅周辺地区整備事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	506200	まちづくり局拠点整備推進室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—	—				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠 (法令・要綱等)	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、川崎駅周辺総合整備計画、京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A		5,970	5,400	20,000	9,191	17,000	15,934
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	0
		市債	0	-	0	-	0	0	0
		その他特財	0	-	0	-	0	0	0
	一般財源	5,970	-	20,000	-	17,000	15,934		
人件費* B				25,355	25,355	0	0	0	
総コスト(A+B)				45,355	34,546	17,000	15,934	0	
人工(単位:人)				2.99					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	魅力ある都市拠点を整備する
	施策	魅力にあふれた広域拠点の形成
	直接目標	川崎・武蔵小杉・新百合ヶ丘駅周辺の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	京急川崎駅周辺地区の土地・建物など	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	川崎の玄関口としてふさわしい都市的な土地利用や景観形成を誘導します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	民間の土地利用転換のタイミングを捉え、狭小敷地が多く低利用に留まっている地区等においては、共同化などによる大街区化を誘導するとともに、これら民間事業の進捗にあわせて脆弱な都市基盤の再編整備を進めます。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①民間開発事業の誘導に向けた「京急川崎駅周辺地区整備促進計画」の検討 ②民間開発事業の整備促進 ・川崎駅北口地区第2街区の事業着手 ・京急川崎駅西街区の事業手法の決定・基本設計の実施に向けた調整 ③都市基盤整備等の取組推進	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①共同化などによる大街区化誘導に向けた開発事業計画の検討を進めました。 ②川崎駅北口地区第2街区については、区内権利者の意向から事業着手には至らなかったものの、事業着手に必要な建築基準法に基づく街区指定の手続き等の必要な手続きを進めました。 ③共同化などによる大街区化を前提とした基盤整備計画の検討を進めました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標					
		実績					
2	説明	目標					
		実績					
3	説明	目標					
		実績					
4	説明	目標					
		実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	国際都市東京や国際化が進められている羽田空港と直結する地理的優位性を活かし、本市の広域拠点として広域調和型まちづくりの更なる推進が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 26 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	川崎駅周辺にありながらポテンシャルを活かしたまちづくりが進んでいないことを踏まえ、平成27年3月に京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針を策定しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	JR川崎駅周辺については、大規模空閑地の開発が完成しつつあり、新たなまちづくりが推進する中、京急川崎駅周辺については、戦災復興土地区画整理以来の老朽市街地となっており、将来の社会ニーズに対応した再開発が必要です。脆弱な都市基盤の改善には、道路管理者や交通管理者など関係機関との調整が必要であり、行政が係わっていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	地区内の大規模地権者とは個別の協議を進めるとともに、小規模地権者については、個別説明と合わせ勉強会を開催するなどして、開発意欲の気運を高めることができています。また、「整備促進計画」策定の中間とりまとめとしてビジョンを作成しました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	・京急川崎駅周辺地区整備促進計画の策定については、委託化が可能であり、それに伴いコストの削減も見込まれます。 ・今後進捗していく民間再開発における国や県の補助金の要望や交付手続きについては、業務分担において専門の職員を配置することで機動的な対応による事務改善が見込まれます。	
施策への貢献度	貢献度区分 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 具体的な事業への着手には至っていないものの、事業を進める上で必要な街区指定手続きを進めたこと、また、大規模権利者との協議調整を進めるとともに小規模権利者を集めた勉強会を開始するなど、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	民間の土地利用転換のタイミングを捉え、適正な土地利用の誘導とともに、これらの進捗に合わせた脆弱な都市基盤の再編整備について計画どおり事業を継続します。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40501030	JR川崎駅北口自由通路等整備事業				有		
担当	所属コード	所属名						
	506200	まちづくり局拠点整備推進室						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—	その他	—	—			
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)							
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、総合都市交通計画、川崎駅周辺総合整備計画							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	2,941,705	1,177,642	2,466,653	1,090,166	3,698,713	3,739,552
		国庫支出金	1,431,230	—	1,195,591	—	1,258,955	1,064,591
		市債	411,000	—	318,000	—	1,200,000	1,451,000
		その他特財	48,493	—	39,427	—	301,283	386,401
		一般財源	1,050,982	—	913,635	—	938,475	837,560
	人件費* B			20,946	20,946	0	0	0
	総コスト(A+B)			2,487,599	1,111,112	3,698,713	3,739,552	0
	人工(単位:人)			2.47				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	魅力ある都市拠点を整備する
	施策	魅力にあふれた広域拠点の形成
	直接目標	川崎・武蔵小杉・新百合ヶ丘駅周辺の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民・駅利用者等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	JR川崎駅へのアクセス性の向上と東西自由通路の混雑緩和、駅東西の利便性・回遊性等の向上を図るため、北口自由通路と新たな改札口を整備します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	北口自由通路と新たな改札口の整備について、鉄道施設の保有・管理者にあたるJR東日本と「施行協定」を締結の上、整備工事を実施中です。基礎杭工事における地中障害物の出現に伴い工程を見直し、供用開始を平成30年3月としました。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①北口自由通路等の整備推進 ②北口自由通路西側ペDESTリアンデッキの整備推進 ③行政サービス施設等の設置に向けた調整 ④アゼリア接続エレベータの整備推進	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標通り達成できました。 ①ホーム上の基礎工事や鉄骨工事が完了しました。 ②基礎杭工事が完了しました。 ③実施設計が完了しました。 ④屋根及びエレベータの基礎工事に着手しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	社会経済情勢を踏まえて改定した「川崎駅周辺総合整備計画」に基づく事業との連携を図りながら、川崎駅北口自由通路の整備を着実に推進する必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27 基礎杭工事における地中障害物の出現に伴い工程を見直し、供用開始を平成30年3月としました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	川崎駅北口自由通路等整備事業を着実に推進しております。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	川崎駅北口自由通路等整備事業を着実に推進しております。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既の実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既の実施済み	a
	評価の理由	効率的に事業を推進しております。	

施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	JR川崎駅へのアクセス性の向上と東西自由通路の混雑緩和、駅東西の利便性・回遊性等の向上を図るため、北口自由通路と新たな改札口の整備を推進しております。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	北口自由通路等整備事業を着実に推進してまいります。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40501040	小杉駅周辺地区整備事業				有		
担当	所属コード	所属名						
	506200	まちづくり局拠点整備推進室						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—	その他	その他	その他			
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市計画法、都市再開発法							
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、住宅基本計画、総合都市交通計画							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	1,400,849	146,917	1,561,422	1,799,346	1,470,222	1,387,237
		国庫支出金	693,800	—	820,500	—	728,900	731,780
		市債	48,000	—	107,000	—	107,000	133,000
		その他特財 一般財源	6,000 653,049	— —	12,000 621,922	— —	12,500 621,822	15,000 507,457
	人件費* B			72,843	72,843	0	0	0
総コスト(A+B)			1,634,265	1,872,189	1,470,222	1,387,237	0	
人工(単位:人)			8.59					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	魅力ある都市拠点を整備する
	施策	魅力にあふれた広域拠点の形成
	直接目標	川崎・武蔵小杉・新百合ヶ丘駅周辺の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	商業、業務、都市型住宅、公共施設などがコンパクトに集約した、広域拠点としてふさわしい都市拠点の形成を図ります	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市街地再開発事業や地区計画など都市計画を活用した民間開発事業を推進し、道路、公園等の都市基盤整備を推進するとともに、商業・業務、医療・福祉、文化・交流機能など、多くの都市機能が集積した誰もが暮らしやすいまちづくりを推進します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①小杉町3丁目東地区の建築工事着手 ②小杉駅東部地区の地区計画に基づく誘導、支援 ③小杉町2丁目地区の事業推進 ④小杉駅北口地区の都市計画手続きの推進 ⑤日本医科大学地区の都市計画手続きの推進 ⑥国道409号沿道の土地利用方針の策定	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ⑥については、地権者の意向の変遷を踏まえ、広場等の整備を考慮した整備計画案を作成するとともに、総合自治会館跡地の土地利用方針策定に向け、民間活用条件の整理を行いました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化
(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)
高齢化が進展した人口減少社会を見据え、誰もが便利に公共サービスを受けられるよう、さまざまな都市機能を駅周辺に効率的に集約・整備するとともに、駅へのアクセス性を高める幹線道路等の都市基盤の整備を進め、利便性の高い都市生活環境を備えた活力と魅力に溢れた広域拠点の形成を推進していく必要があります。

事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
	具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	小杉駅周辺については、開発の契機をとらえ都市機能の集約や基盤整備を進めており、今後も引き続き民間開発を適切に誘導・支援することで、利便性の高い都市生活環境を備えた誰もが暮らしやすいまちづくりを推進していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	駅直結の大規模商業施設や都市型住宅等の整備、公共公益施設の再整備、道路や駅前広場の整備等により、都市の活力や駅周辺の利便性が大きく向上しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	地区の骨格を形成する事業について重点的に支援し、都市計画手法等を用いて民間開発事業を誘発することで、波及効果の高い効率的なまちづくりの推進を図っています。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	駅直結の大規模商業施設や都市型住宅等の整備、公共公益施設の再整備、道路や駅前広場の整備等により、都市の活力や駅周辺の利便性が大きく向上しており、誰もが暮らしやすい、活力と魅力に溢れた広域拠点の形成に取り組む施策に貢献しています。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上的変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	①小杉町3丁目東地区の事業推進 ②小杉駅東部地区の地区計画に基づく誘導、支援 ③小杉町2丁目地区の一部工事完了 ④小杉駅北口地区の建築工事着手 ⑤日本医科大学地区の建築工事着手 ⑥国道409号沿道の土地利用方針に基づく取組の推進	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	④小杉駅北口地区(エルシー跡地等)の都市計画手続の推進 ⑤日本医科大学地区の建築工事着手に向けた手続の推進	
	変更の理由	④地権者間の合意形成等に時間を要しているため。 ⑤大学が病院計画を精査し事業の遅延を表明したため。	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40501050	新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	504100	まちづくり局市街地整備部地域整備推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	その他	その他				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、総合都市交通計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	17,300	6,410	86,000	31,503	0	2,000	
		国庫支出金	9,515	-	44,000	-	0	0	
		市債	7,000	-	32,000	-	0	0	
		その他特財	0	-	9,000	-	0	0	
	一般財源	785	-	1,000	-	0	2,000		
人件費* B			3,307	3,307	0	0	0		
総コスト(A+B)			89,307	34,810	0	2,000	0		
人工(単位:人)			0.39						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	魅力ある都市拠点を整備する 魅力にあふれた広域拠点の形成
	直接目標	川崎・武蔵小杉・新百合ヶ丘駅周辺の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、駅前広場利用者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	より質の高い、魅力ある広域拠点の形成を推進します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	新たな土地利用転換・建物の更新に伴う民間開発の適切な誘導や駅前の交通環境改善を図ることで、より質の高い、魅力ある広域拠点の形成を推進します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①南口駅前広場等の交通混雑緩和に向けた取組の推進 ②民間開発の誘導	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①②新百合ヶ丘まちづくり懇談会への参加を通じて、駅周辺の地権者に対して、交通環境改善の取組について理解を得るとともに、今後のまちづくりの必要性について、意見交換を行うことができました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	円滑な都市活動を支える世田谷町田線や尻手黒川線などの幹線道路の整備にあわせ、都市型住宅・商業等の都市機能の集積などが図られているものの、駅周辺の道路においては、休日や雨天などの特定の時間帯で交通混雑が見受けられ、交通環境改善が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成27年度:新百合ヶ丘駅北口駅前広場内における、一般車等の利用の変更を行いました。 平成28年度:新百合ヶ丘駅南口駅前広場における再整備を行いました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	駅周辺の道路においては、休日や雨天などの特定の時間帯において、現在も交通混雑が見受けられることから、今後も継続して交通環境の改善を進めていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	交通流の改善やバリアフリー化、安全性の向上などに資する取組を、道路管理者や交通管理者と連携して実施することで、駅周辺における交通混雑改善等の効果が徐々に上がってきています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	民間開発の誘導については、委託などにより民間を活用し、適切な事業手法等を検討するなど、効率的かつ効果的に事業を推進しています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	南口駅前広場等の再整備は、駅周辺の交通環境の改善に資する取組であり、より質の高い、魅力ある広域拠点の形成に向けた貢献度は高いと考えます。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 交通環境改善による取組の効果を注視しながら、新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりの検討を行い、広域拠点として相応しい土地利用誘導を継続して行っていきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)

1 施策の概要							
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり					
	政策(2層)	魅力ある都市拠点を整備する			計画当初値 (H27年)	直近実績値 (H28年度)	最終目標値 (H37年)
	市民 実感指標	①	市内の広域拠点駅(川崎駅、武蔵小杉駅、新百合ヶ丘駅)の周辺に魅力や活力があると思う市民の割合		70.0%	72.8%	70.0%
		②	市内の地域生活拠点駅(新川崎・鹿島田駅、武蔵溝ノ口駅、鷺沼・宮前平駅、登戸・向ヶ丘遊園駅)の周辺に魅力や活力があると思う市民の割合		52.6%	42.2%	52.6%
施策 (3層)	施策コード	施策名					
	40502000	個性を活かした地域生活拠点等の整備					
担当	組織コード	所属名					
	504100	まちづくり局市街地整備部地域整備推進課					
関係課	まちづくり局総務部企画課、まちづくり局登戸区画整理事務所、まちづくり局市街地整備部防災まちづくり推進課、建設緑政局道路河川整備部道路整備課						
施策の概要	<p>●交通結節点である鉄道駅を中心とした地域生活拠点では、市街地開発事業等により商業、業務、都市型住宅等の機能の集積を図るとともに、バリアフリーに配慮した交通広場等の都市基盤の整備等を行うことで、安全で快適な利便性の高い都市機能がコンパクトに集約したまちづくりを進めています。今後も引き続き、それぞれの地域特性や個性を活かした地域生活拠点の整備を推進します。</p> <p>●鉄道沿線を中心に、概ね4つのエリアに展開する生活行動圏では、広域拠点等の重点的整備により、まちづくりによる大きな効果が見られる中、その効果が拠点駅周辺の身近な駅周辺にも波及しつつある状況を捉え、拠点整備の波及効果を効率的かつ効果的に活用するため、生活行動圏に沿った拠点間を結ぶ4つのエリアそれぞれの特性を活かした身近なまちづくりを推進します。</p> <p>●広域拠点や地域生活拠点以外の交通利便性が高い身近な駅周辺では、鉄道を主軸に沿線の拠点地区と都市機能を連携・分担し、地域の特性や課題に応じた交通や生活の利便性の充実などにより、地域住民の暮らしを支えるまちづくりを推進します。</p>						
直接目標	新川崎・鹿島田、溝口、鷺沼・宮前平、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺の魅力を高める						

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名 (指標の説明)				現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位
成果 指標	1	地域生活拠点(新川崎・鹿島田駅、溝口駅、鷺沼・宮前平駅、登戸・向ヶ丘遊園駅)の駅周辺人口		17.5	目標値①	17.5	17.6	万人
		指標の説明 地域生活拠点の駅を中心に半径500m圏内の町丁目の川崎市統計書による人口を合計		H26	実績値②	18	-	
				達成率(②/①)	102.9%	-		
				指標達成度 ※1	a	-		
	2	地域生活拠点(新川崎・鹿島田駅、溝口駅、鷺沼・宮前平駅、登戸・向ヶ丘遊園駅)の駅平均乗車人員		51.5	目標値①	51.8	52.1	万人/日
		指標の説明 地域生活拠点の駅の川崎市統計書による乗車人員を合計		H25	実績値②	53.6	-	
				達成率(②/①)	103.5%	-		
				指標達成度 ※1	a	-		
3	指標の説明			目標値①				
				実績値②				
			達成率(②/①)					
			指標達成度 ※1					
4	指標の説明			目標値①				
				実績値②				
			達成率(②/①)					
			指標達成度 ※1					
その他数値で把握できる補足指標 (指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	指標の説明			実績				
				実績				
2	指標の説明			実績				
				実績				
その他定性的な成果 (取組を進めたことで発現した効果などについて記載)								
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)				<p>●地域生活拠点の駅周辺人口については、鹿島田駅西部地区市街地再開発事業の工事完了などの拠点整備や拠点整備の波及効果により、数値目標を達成しています。</p> <p>●駅乗降人員については、溝口駅南口における広場整備などの交通結節機能の強化や駅周辺の人口増加などにより、数値目標を達成しています。</p>				

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価									
番号	事務事業コード 事務事業名	サービ ス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の 達成度	施策へ の貢献 度	今後の 事業の 方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度(※決算額は見込) H29年度				
1	40502010 新川崎駅・鹿島田駅周辺地区まちづくり推進事業	その他	新川崎駅・鹿島田駅周辺地区については、大規模な土地利用転換を促し、商業・都市型住宅・研究開発機能等の集積を誘導するとともに、道路等の都市基盤施設の充実を図ります。	●新川崎地区地区計画に基づく土地利用誘導の推進 ●鹿島田駅西部地区市街地再開発事業の完了 ●民間開発の誘導	59,285	2,555,578	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続
					2,400	261,559			
					2,000				
2	40502020 溝口駅周辺地区まちづくり推進事業	その他	溝口駅周辺地区については、地域生活拠点としての交通結節機能の強化を図るための広場整備を行います。	●溝口駅南口におけるバスターミナル・タクシー乗場及び駐輪場等の広場整備 ●民間開発の誘導	264,838	102,000	3	A 貢献して いる	IV 事業規模 縮小
					472,752	541,574			
					0				
3	40502030 鷺沼駅周辺地区まちづくり推進事業	その他	鷺沼駅周辺地区については、駅を中心に高齢者等の多様なライフスタイルに対応した都市機能集積及び交通結節機能の強化に向けた取組を推進します。	●鷺沼駅前地区の事業計画の調整 ●「田園都市線沿線まちづくりに関する包括協定」に基づく、まちづくり事業の推進 ●鷺沼駅前地区の民間事業の誘導	1,500	1,296	3	B やや貢献 している	I 現状のま ま継続
					4,860	4,104			
					15,265				
4	40502040 登戸土地区画整理事業	その他	登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区については、交通結節機能、自然環境、文化施設等の立地環境を活かし、魅力と活力にあふれた市北部の拠点地区の形成を土地区画整理事業により推進します。	●登戸駅西側周辺地区等の集団移転の推進(3地区) ●登戸駅西側周辺地区まちづくり検討会等の実施(5回)	3,619,079	2,022,272	3	A 貢献して いる	III 事業規模 拡大
					4,427,501	5,163,366			
					5,511,315				
5	40502050 柿生駅周辺地区再開発等事業	その他	柿生駅周辺地区については、民間主導の再開発を誘導し、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進します。	●事業化に向けた取組の推進 ●バス暫定広場の維持管理	33,013	31,624	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続
					36,215	35,361			
					35,215				
6	40502060 南武線沿線まちづくり推進事業	その他	南武線沿線の土地利用転換の機会を捉えた戦略的かつ機動的な誘導により、民間活力を活かした駅を中心としたまちづくりを推進します。	●南武線沿線まちづくり方針の基本的考え方の取りまとめ ●民間開発の誘導 ●南武線各駅を中心とした土地利用の方策の検討	3,000	2,538	3	B やや貢献 している	I 現状のま ま継続
					3,500	2,916			
					2,500				
7	40502070 南武支線沿線まちづくり推進事業	その他	小田栄駅設置を契機に、交通結節機能の改善などによる鉄道軸の強化や住環境の改善などの取組を戦略的かつ段階的に行うことにより、沿線地域の持続的な発展に向けたまちづくりを推進します。	●「南武支線沿線における今後のまちづくり方針」に関する検討 ●周辺地域からの「駅へのアクセスの改善方策」の検討	3,000	2,695	3	B やや貢献 している	III 事業規模 拡大
					3,000	2,646			
					3,000				
8									
9									

4 施策の進捗状況			
施策の 進捗状況 (指標等の成果を中心 に施策を構成する事務 事業の評価等から総合 的に評価)	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進 捗している) C. 進捗が遅れている (目標達成が遅れる可 能性がある) D. 進捗は大幅に遅れ ている (目標達成が難しい可 能性がある)	A

5 今後の方向性			
今後の 事業構成の 妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40502010	新川崎駅・鹿島田駅周辺地区まちづくり推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	504100	まちづくり局市街地整備部地域整備推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	その他	その他				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市計画法・都市再開発法								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、住宅基本計画、総合都市交通計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	59,285	2,555,578	2,400	261,559	3,300	2,000	
		国庫支出金	8,250	-	0	-	0	0	
		市債	27,000	-	0	-	0	0	
		その他特財	0	-	0	-	0	0	
	一般財源	24,035	-	2,400	-	3,300	2,000		
人件費* B			11,787	11,787	0	0	0		
総コスト(A+B)			14,187	273,346	3,300	2,000	0		
人工(単位:人)			1.39						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	魅力ある都市拠点を整備する 個性を活かした地域生活拠点等の整備
	直接目標	新川崎・鹿島田、溝口、鷺沼・宮前平、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	民間の土地利用の機動的な誘導及び市街地再開発事業の推進により、利便性の高い拠点形成を目指します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	大規模な土地利用転換を捉え、商業・都市型住宅・研究開発機能等の集積を誘導するとともに、併せて道路等の都市基盤施設の充実に図ります。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①新川崎地区地区計画に基づく土地利用誘導の推進 ②鹿島田駅西部地区市街地再開発事業の完了 ③民間開発の誘導	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	大規模な土地利用転換を契機とし、地域生活拠点にふさわしい都市機能の集積を図るとともに、道路等の都市基盤施設の充実が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	新川崎駅周辺地区 平成26年 1月 鹿島田こ線歩道橋の供用開始 平成27年 3月 新川崎交通広場の供用開始 平成28年 3月 新川崎駅前広場ロータリーのUDタクシー専用乗場の供用開始 鹿島田駅周辺地区 平成26年 10月 新川崎駅側ペDESTリアンデッキの供用開始 平成27年 4月 鹿島田駅側ペDESTリアンデッキの供用開始 平成28年 11月 鹿島田駅西部地区市街地再開発事業の竣工に伴う鹿島田駅・新川崎駅間をつなぐ歩行者動線の全面開通

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	鹿島田駅西部地区市街地再開発事業は完了しましたが、新川崎・鹿島田駅周辺地区は、地域住民からも注目を浴びており、引き続き、地域生活拠点として相応しいまちづくりを推進していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	市街地再開発事業による生活利便施設や住宅棟の完成や新川崎地区における産学交流・研究開発施設の事業者の決定など、個性ある利便性の高い地域として施策の効果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	民間開発の誘導については、委託などにより民間を活用し、適切な事業手法等を検討するなど、効率的かつ効果的に事業を推進しています。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	市街地再開発事業が完了し、駅間をつなぐ歩行者通路が完全開通し、地域住民の利便性が向上するなど、地域生活拠点として相応しいまちづくりへの貢献度は高いと考えます。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40502020	溝口駅周辺地区まちづくり推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	534100	建設緑政局道路河川整備部道路整備課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	昭和58年度	平成28年度	その他	その他	-				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度								
(法令・要綱等)	都市計画法・道路法								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、総合都市交通計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	264,838	102,000	472,752	541,574	0	0	
		国庫支出金	100,000	-	145,200	-	0	0	
		市債	144,000	-	287,000	-	0	0	
		その他特財	5,579	-	13,899	-	0	0	
		一般財源	15,259	-	26,653	-	0	0	
	人件費* B			23,744	23,744	0	0	0	
	総コスト(A+B)			496,496	565,318	0	0	0	
	人工(単位:人)			2.8					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	魅力ある都市拠点を整備する 個性を活かした地域生活拠点等の整備
	直接目標	新川崎・鹿島田、溝口、鷺沼・宮前平、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民→バスターミナルや鉄道利用者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民が安全で安心できる生活拠点の都市基盤整備を促進します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	南口広場の整備計画は確定しており、関係機関と協議・調整を図りながら平成28年度内の完成を目指します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	① 溝口駅南口駅前広場の完成 ② 民間開発の誘導	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	・少子高齢化の更なる進展・魅力創出、環境問題等の社会環境変化
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	・バスシェルターにソーラーパネルを設置し、地下駐輪場の照明の電力に使用しています。 ・保水性平板ブロックや遮熱性舗装を採用しヒートアイランド現象等の環境に配慮しています。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	主要な交通結節点である溝口駅周辺地区は、鉄道駅施設やバスターミナルのバリアフリー化を促進するとともに鉄道とバスの乗り継ぎの円滑化を図り利便性や快適性、安全性を促進し交通アクセス環境の改善が図られました。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	鉄道とバスの乗り継ぎの円滑化が図られ、利便性や快適性が向上したことにより公共交通機関の利用が促進し、駅を中心とした拠点を形作るための溝口駅南口広場の整備や交通広場の改善、交通アクセス環境の改善が図られました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	バスシェルターに設置した太陽光パネルによる電源を照明などに利用し維持管理費の削減に寄与しています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	鉄道とバスの乗り継ぎの円滑化が図られ、利便性や快適性が向上したことにより公共交通機関の利用が促進し、駅を中心とした拠点を形作るための溝口駅南口広場の整備や交通広場の改善、交通アクセス環境の改善が図られました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	IV 溝口駅南口駅前広場の整備は平成28年度に完了しましたが、引き続き民間開発の誘導を行ってまいります。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40502030	鷺沼駅周辺まちづくり推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	501200	まちづくり局総務部企画課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	—	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、総合都市交通計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	1,500	1,296	4,860	4,104	51,500	15,265	
		国庫支出金	0	—	0	—	20,000	0	
		市債	0	—	0	—	0	0	
		その他特財	0	—	0	—	0	0	
		一般財源	1,500	—	4,860	—	31,500	15,265	
人件費* B			5,088	5,088	0	0	0		
総コスト(A+B)			9,948	9,192	51,500	15,265	0		
人工(単位:人)			0.6						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	魅力ある都市拠点を整備する 個性を活かした地域生活拠点等の整備
	直接目標	新川崎・鹿島田、溝口、鷺沼・宮前平、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、地権者等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	駅を中心に多様なライフスタイルに対応した魅力ある地域生活拠点の形成をめざします	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	民間活力を活かした駅前広場の再整備等による、鷺沼駅周辺を中心に多様な都市機能の集積及び交通結節機能の強化に向けた取組を推進します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①鷺沼駅前地区の事業計画の調整 ②「田園都市線沿線まちづくりに関する包括協定」に基づく、まちづくり事業の推進 ・宮前平駅周辺の魅力の増進に向けた取組の推進 ③鷺沼駅前地区の民間事業の誘導	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	鷺沼駅北口改札の開設や歩行者信号機の設置等により、安全性向上など一定の改善が図られていますが、バスやタクシーなどの輻輳や、歩行者の駅アクセス性の向上など、未だに課題があります。また、沿線開発から50年以上経過する地域もあり、今後沿線人口の高齢化や建物の高経年化の進展などが予想され、新たな課題に対応する必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	川崎市内における「東急沿線まちづくり」の連携・協力に関する包括協定を締結し、鉄道事業者との連携協力体制を構築

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	鷺沼駅周辺は地域生活拠点として位置付けられていますが、住民の高齢化や建物の老朽化、駅アクセス等の課題が残されており、土地の高度利用も図られていないため、引き続き、多様な都市機能の集積と交通結節機能の強化に向けた取組を推進する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	鷺沼駅周辺まちづくりに向けて、事業計画の調整の熟度や市民意識等が着実に高まっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	川崎市内における「東急沿線まちづくり」の連携・協力に関する包括協定を締結によって、民間活力を活かした事業成果が高まることが見込まれます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	鷺沼駅周辺再編整備に向けた事業計画の調整や交通結節機能の強化に向けた検討を進めるとともに、宮前平駅におけるエスカレーター工事に着手するなど、地域生活拠点の形成に向けた取組を着実に推進し、一定程度施策へ貢献しました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 今後も引き続き、計画どおり事業を推進します。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40502040	登戸土地区画整理事業				有		
担当	所属コード	所属名						
	506100	まちづくり局登戸区画整理事務所						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	昭和63年度	平成37年度	その他		—			
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度							
(法令・要綱等)	土地区画整合法							
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、情報化推進プラン、総合都市交通計画、登戸土地区画整理事業整備プログラム							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名				
	2(1) 市民ニーズへの的確な対応に向けた組織の最適化			15 登戸土地区画整理事業補償業務執行体制の見直し				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	3,619,079	2,022,272	4,427,501	5,163,366	4,132,458	5,511,315
		国庫支出金	792,760	-	1,076,550	-	1,076,550	1,289,025
		市債	1,626,000	-	1,992,000	-	1,893,000	2,757,000
		その他特財	750,236	-	865,993	-	671,838	1,022,564
	一般財源	450,083	-	492,958	-	491,070	442,726	
人件費* B			200,128	200,128	0	0	0	
総コスト(A+B)			4,627,629	5,363,494	4,132,458	5,511,315	0	
人工(単位:人)			23.6					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	魅力ある都市拠点を整備する
	施策	個性を活かした地域生活拠点等の整備
	直接目標	新川崎・鹿島田、溝口、鷺沼・宮前平、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	都市計画道路や駅前広場などの主要な交通幹線網の整備や、地域の生活基盤となる区画道路・公園の整備とあわせて、土地の整形化や建物の更新を図ることで、地区の拠点形成や防災性の向上・生活環境の改善を推進します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	平成37年度の事業完了に向けて、骨格となる幹線道路や駅前周辺等、整備効果の高い箇所の整備を重点的に進めるとともに、効果的な事業手法である集団移転の活用による事業を推進します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①整備プログラムに基づく重点的な整備の推進 ・駅前広場整備に向けた協議調整 ②登戸駅西側周辺地区等の集団移転の実施 ③早期の事業完了に向けた効果的な事業手法の検討 ④多摩区の玄関口にふさわしいまちの賑わいの創出に向けた取組の推進	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ②の登戸駅西側周辺地区等の集団移転については、登戸駅西側周辺地区は建築物の除却が概ね完了し、60街区及び64街区周辺は説明会・仮換地指定・建物調査を実施 ④の多摩区の玄関口にふさわしいまちの賑わいの創出に向けた取組については、登戸駅西側周辺で、将来の商店街形成を見据えた、まちづくり方針の策定に向けた検討会等を5回実施	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	仮換地指定率	説明 仮換地指定面積(累計)と全宅地面積との割合。	目標		80	81.6	%
			実績	75.2	80.6		
2	説明		目標				
			実績				
3	説明		目標				
			実績				
4	説明		目標				
			実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	事業の早期完了に向け、事業進捗に応じた必要な予算・人員を確保する必要があります。平成25年度より民間事業者を活用した補償交渉支援業務を導入しており、その効果検証を踏まえ、引き続き効率的・効果的な事業の推進が求められています。
事業の見直し・改善内容 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 平成27年度: 事業計画を変更し、事業施行期間をH37年度末まで延伸しました。 平成25年度~: 集団移転手法を活用した効率的・効果的な事業推進を図るため、補償交渉支援業務を導入しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	防災性の向上や生活環境の改善を図るため、早期の事業完了が求められていることから、集団移転を活用し、民間活力を活かした補償交渉支援業務も導入しながら、施行者として行政が効率的・効果的に事業を進めていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	活動指標は目標値を達成しています。今後とも集団移転を活用し、仮換地指定を進めていきます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	・民間活力による補償支援業務を導入したことにより、登戸駅西側周辺地区の集団移転の推進や、移転補償交渉等に係るノウハウの活用を通じて、事業推進に寄与しています。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	登戸駅西側周辺地区の集団移転を推進した他、他の街区においても集団移転に向けた説明会を実施し、仮換地指定率は目標通り達成したことから、施策への貢献があります。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分 I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 登戸駅西側周辺地区の集団移転を着実に推進し、道路整備を行うとともに、他の街区での集団移転に係る移転補償交渉業務の増加に対応するため、効率的・効果的な執行体制により、早期事業完了に向けた取組を推進していきます。
	今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40502050	柿生駅周辺地区再開発等事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	504100	まちづくり局市街地整備部地域整備推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	その他	その他				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市再開発法								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、環境基本計画、総合都市交通計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	33,013	31,624	36,215	35,361	36,215	35,215	
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	
		市債	0	-	0	-	0	0	
		その他特財	0	-	0	-	0	0	
	一般財源	33,013	-	36,215	-	36,215	35,215		
人件費* B			7,123	7,123	0	0	0		
総コスト(A+B)			43,338	42,484	36,215	35,215	0		
人工(単位:人)			0.84						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	魅力ある都市拠点を整備する 個性を活かした地域生活拠点等の整備
	直接目標	新川崎・鹿島田、溝口、鷺沼・宮前平、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	事業施行区域内の関係権利者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	民間主導の再開発を誘導し、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	地区内の権利者で構成される地元組織に対する支援を行い、再開発事業を適切に誘導するとともに、駅周辺地域における歩行者等の安全性の確保と安定したバスサービスの提供のためのバス暫定広場を適切に維持管理します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①事業化に向けた取組の推進 ・地域が主体となった再開発検討組織の運営支援 ・事業手法等に関する検討・調整 ②バス暫定広場の維持管理	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	柿生駅南口地区における歩行者の安全確保や駅前商業の活性化とともに、鉄道と路線バスとの交通結節機能の改善といった本市の北部地域における身近な日常生活上の拠点としての整備が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	平成19年度: 麻生10号線の安全対策のため、バス暫定広場の供用を開始し、バス停機能を駅前から移しました。 平成27年度: 長期に渡る停滞を打開するため、土地所有者のみで構成される会合を新たに開始し、事業に対する気運を醸成する取組を重点的に推進しました。 平成28年度: これまで参加していなかった土地所有者を含めた新準備組合を設立させました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	・これまでの準備組合に参加していなかった土地所有者を含めた新準備組合が設立されるなど、権利者のまちづくりへの機運は非常に高まっており、今後も積極的に柿生駅南口地区におけるまちづくりを推進していく必要があります。 ・バス暫定広場についても、市民サービスの質を低下させないよう、適切な対応が必要となります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	・勉強会の開催などにより、権利者のまちづくりに対する機運が高まっており、取組の効果は上がってきています。 ・バス暫定広場の適切な維持管理により市民サービスの質は確保されています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	事業を円滑に推進するために、再開準備組合との役割分担や委託による民間の活用などを行っており、効率的かつ効果的に事業を推進しています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	これまで参加していなかった土地所有者が参加する新準備組合を設立させることができたことは、柿生駅南口地区におけるまちづくりを推進する上で、貢献度は高いと考えます。また、バス暫定広場についても適切な維持管理を行っており、市民への貢献度は高いと考えます。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	柿生駅南口地区のまちづくりを実現に向けた取組の推進とバス暫定広場の適切な維持管理を継続して行っています。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40502060	南武線沿線まちづくり推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	504100	まちづくり局市街地整備部地域整備推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	その他	その他				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市計画法・都市再開発法								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、住宅基本計画、総合都市交通計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	3,000	2,538	3,500	2,916	3,000	2,500	
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	
		市債	0	-	0	-	0	0	
		その他特財	0	-	0	-	0	0	
		一般財源	3,000	-	3,500	-	3,000	2,500	
人件費* B			2,798	2,798	0	0	0		
総コスト(A+B)			6,298	5,714	3,000	2,500	0		
人工(単位:人)			0.33						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	魅力ある都市拠点を整備する 個性を活かした地域生活拠点等の整備
	直接目標	新川崎・鹿島田、溝口、鷺沼・宮前平、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	南武線沿線における駅を中心とする魅力あるまちづくりを推進します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	南武線連続立体交差事業との連携を図りながら、沿線の土地利用転換を戦略的・機動的に誘導し、駅前の顔づくりの誘導や駅までのアクセス向上など、民間活力を活かしたまちづくりを推進します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①「南武線沿線まちづくり方針」の策定 ②民間開発の誘導 ③南武線各駅を中心とした適切な土地利用方策の検討	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当年度取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	①南武線連続立体交差事業の地域勉強会を4回、市民説明会を2回開催し、沿線まちづくりの基本的な考え方についてのとりまとめを行いました。 ③西加瀬地区については、都市基盤施設の改善や周辺市街地との調和等に配慮するような調整を事業者と行いました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	これまでの拠点整備の波及効果を効率的かつ効果的に活用しながら、沿線のまちづくりを進めます。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成27年度:「沿線まちづくりの基本的な考え方」を示しました。 平成28年度:南武線連続立体交差事業の進捗にあわせ、連立事業の地域勉強会や市民説明会において沿線まちづくりの考え方の説明を行いました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	JR南武線連続立体交差事業に関する地域勉強会や市民説明会においても、連立事業とそれに伴う沿線のまちづくりの必要性についての市民の関心は高く、戦略的・機動的にまちづくりを推進していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	地域勉強会や市民説明会を開催することで、沿線まちづくりの重要性・必要性について、理解を得ることができました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	今後、沿線のまちづくりを推進していく上で、民間活力を活かしながら、適切な土地利用誘導を行うことで、事業の効率性が高まるものと考えます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	具体的な事業着手には至っていないものの、沿線まちづくりの必要性については、市民に対して一定の理解を得ることができ、今後の各駅を中心としたまちづくりの推進にあたって、一定程度の貢献はありました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	今年度開催する南武線連続立体交差事業の地域勉強会等において、まちづくりの考え方についての深度化を図り、まちづくり方針を公表のうえ、沿線におけるまちづくりを適切に推進してまいります。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40502070	南武支線沿線まちづくり推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	505600	まちづくり局市街地整備部防災まちづくり推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、総合都市交通計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A		3,000	2,695	3,000	2,646	3,000	3,000
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0	0
		市債	0	—	0	—	0	0	0
		その他特財	0	—	0	—	0	0	0
	一般財源	3,000	—	3,000	—	3,000	3,000	—	
人件費* B				5,936	5,936	0	0	0	
総コスト(A+B)				8,936	8,582	3,000	3,000	0	
人工(単位:人)				0.7					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	魅力ある都市拠点を整備する
	直接目標	個性を活かした地域生活拠点等の整備
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	沿線住民等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	公共交通機能強化や住環境の改善などにより、まちの活力と魅力が持続するまちづくりを推進します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	小田栄駅設置を契機に、交通結節機能の改善などによる鉄道軸の強化や防災面を含めた住環境の改善などの取組を戦略的かつ段階的に行うことにより、沿線地域の持続的な発展に向けたまちづくりを推進します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①のまちづくり方針の検討については、まちづくり方針(素案)に対する関係各課の意見を集約しました。 ②の駅へのアクセスの改善方策の検討については、段階整備の考え方を整理し、事業化に向けた課題整理を行いました。	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①のまちづくり方針の検討については、まちづくり方針(素案)をとりまとめました。 ②の駅へのアクセスの改善方策の検討については、段階整備の考え方を整理し、関係部署との調整に向けた会議体を設置しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	小田栄駅設置や南武支線の増便などの機能強化や密集市街地の改善に向けた新たな取組方針の策定などの状況変化を捉え、沿線のまちづくりを推進していく必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	南武支線沿線は、鉄道利用率が低いこと、少子高齢化や人口減少による活力低下が生じていることから、地域の持続的な発展に向け、行政が主体となり、まちづくりの目標を市民と共有できるまちづくり方針を策定することは必要不可欠となります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	事業実施に向けた方針検討段階であることから、具体的な成果は無いものの、鉄道利用率の向上や地域活性化の実現に向けたまちづくり方針素案をとりまとめているため、今後の成果につながるものと考えられます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	今後の事業実施段階において、「民間活力」や「新たな事業手法」などが導入可能な段階整備の考え方をまちづくり方針の中で検討しており、関係部署との調整を検討会議にて進めていきます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	まちづくり方針の検討において、沿線地域の持続的な発展に向けた「まちの魅力向上」と「鉄道軸強化」による戦略的かつ段階的な取組の考え方を示し、関係部署との調整を進めており、「地域活性化」や「鉄道利用率向上」などに繋がることから、施策への貢献度は高いものと考えます。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III	沿線地域においては、高齢化率上昇や人口減少などによる地域の活力低下が生じていることから、「小田栄新駅の設置」や「新たな密集市街地の取組方針の策定」などの機会を捉え、まちづくり方針を策定し、沿線価値向上を図る「まちの魅力向上」や「鉄道軸強化」といった地域活性化に向けた取組について、事業規模を拡大する方向で検討していきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	